



2020年3月31日

国立研究開発法人 建築研究所国際地震工学センター

第179号

〒305-0802 茨城県つくば市立原1 TEL 029-879-0678 FAX 029-864-6777

## 今月の話題

- 退任のご挨拶
- 第25回グローバル地震観測コースを修了
- グローバル地震観測コース閉講式研修生代表挨拶
- 帰国報告

## 研修データベース

IISEENET(地震防災技術情報ネット)

IISEE-UNESCO レクチャーノート

Eラーニング

シノプシス・データベース(修士論文概要)

Bulletin データベース

## 退任のご挨拶

国際地震工学センター長 横井 俊明

2020年3月末日、2013年4月より7年間在任した国際地震工学センター長を退任致しました。在任期間には様々な出来事や問題により、国際地震工学センターにとっては必ずしも平穏な年月ではありませんでしたが、スタッフの非常な努力により乗り切ることができました。一方で、1頁に納まりきらない程、楽しい、或いは意義深い出来事が沢山ありました。IISEE News Letterの読者の皆様に、この7年間に頂いた心からの御支持に、真摯に感謝致します。新センター長は小豆畑さんです。今後も、新センター長とIISEEへの御支持を頂ければ幸いです。私は、国際地震工学センターのシニアフェローとして、引き続き国際地震工学研修に関与しています。近い将来、皆様と再び御会いできることを楽しみにしています。



横井センター長

## 第25回グローバル地震観測コースを修了

国際地震工学センター 管理室長 山田高広

令和2年1月14日に開始したグローバル地震観測コースは、3月6日(金)に閉講しました。JICA筑波で開催された閉講式では、ブータン、インド、ネパール、パキスタン、スリランカ、イラン、キューバ、アルジェリア、コモロ、エジプト、モーリシャス、ソマリア、ジンバブエから参加した16名すべての研修生がJICA筑波の渡邊所長とBRIの緑川理事長から修了証書を受け取りました。そしてコモロのマリアマ氏が研修生代表として挨拶をしました。

研修期間は約2か月間でしたが、研修生はCTBTO体制および国際監視制度における地震学の役割についての知識を習得するとともに、核実験と地震を監視するためのグローバル地震観測技術や核実験と自然地震を識別するデータ分析技術等を学ぶことができたと思います。

研修生には、日本で学んだ知識を母国で沢山の方にも紹介して頂けると嬉し

## 地震データベース

2011年3月11日東北地方太平洋沖地震

地震情報

宇津カタログ(世界の地震被害)

地震カタログ(世界の大地震の震源メカニズム、余震分布等)

## 論文募集

IISEE Bulletin は、現在地震学、地震工学、津波に関する論文を募集しております。開発途上国に関するものを対象としていますが、それに限らず募集しています。

送って頂いた未発表の論文は、編集委員会と専門家による査読を行います。投稿料は無料です。

是非チャレンジして下さい。

いです。

研修生のこれからのご活躍に期待しています。



JICA 筑波国際センター渡邊健所長



建築研究所 緑川光正理事長



モーリシャスのDJさん



ブータンのニティアムさん



コモロのシャフィクさん



ソマリアのアーメドさん



閉講式



## グローバル地震観測コース閉講式研修生代表挨拶

マリアマ マディ、コモロ



楽しむのは今です。



JICA 筑波国際センター所長、渡邊健様、建築研究所理事長、緑川光正様。  
2019 年度グローバル地震観測研修参加者を代表して皆様の前でスピーチを行う機会をいただき、大変光栄です。私たちに沢山の素晴らしい学びを与えてくれた 2 か月間の研修は長い道のりでした。

まずは、私達にとって大きな節目となる 2019 年度グローバル地震観測研修に尽力くださった外務省、国際協力機構(JICA)、建築研究所(BRI)と国際地震工学センター(IISEE)に感謝いたします。

平和的環境の維持は、日本や核のない世界を目指す国々にとって常に重要なテーマであります。この 2 か月間のコースで包括的核実験禁止条約

(CTBT)検証制度の目的について理解を深め、地震と核爆発の識別手法について学びました。講義に尽力いただいた、日本だけでなく世界の地震学分野の博識な教授や専門家である講師の皆さんに敬意を表します。

このプログラムは地震学についての理解と知識を深く掘り下げるだけでなく、このコースで経験した成果を今後それぞれの組織や国で応用していく能力を鍛えることにつながる大変素晴らしい機会になりました。しかしながら、私達研修参加者の国々と日本政府との持続的な協力関係を築いていくのはこれからです。研修旅行では豊かな文化から、多数の死傷者や甚大な被害をもたらした地震や津波などの自然災害や壊滅的ダメージを受けた第二次世界大戦の後に急速に復興し、どうやってそれを維持してきたのかまで、日本という国について幅広く学ぶことができました。

このプログラムで得た多くの経験や知識は、それぞれの母国に帰ってからも大きな原動力となるでしょう。そして、私達はこのプログラムで生まれた強い結びつきがこれからそれぞれの業務において続いていくと信じています。

お世話になった講師の皆さん、建築研究所の皆さん、そして研修管理員としていつも私達に寄り添い、どんな活動においてもサポートをしてくださった佐久間さん、稲留さんに心から感謝いたします。私たちは、決して忘れません。

2019 年度グローバル地震観測研修で 2 か月間を過ごした JICA 筑波は私達にとって愛しいホームであり、共に過ごした研修参加者は皆家族です。そして、通年コースの研修生とは通路等で顔を合わせるたび親交を深めました。皆さんと、そしてこの素晴らしく美しい国日本を恋しく思うでしょう。この研修を成功に導いていただき、改めて感謝申し上げます。どうもありがとうございます！



コモロのマリアマ マディさん

## 連絡先

IISEE ニュースレターは、IISEE と卒業生の架け橋を目指しています。

ニュースレターへの報告や記事をお待ちしております。皆様の自国でのご活躍をお知らせ下さい。

また、皆様の同僚やお友達もこのメーリングリストに登録するようにお誘い下さい。

iiiseenews@kenken.go.jp  
<http://iisee.kenken.go.jp>

バックナンバーは下記をご覧ください。

<http://iisee.kenken.go.jp/nldb/>



## 帰国報告

国際地震工学センター 主任研究員 林田拓己

昨年の4月1日から今年の1月31日までの10ヶ月間、建築研究所の長期派遣研究員制度を活用して、アメリカ合衆国・カリフォルニア大学バークレー校の地震研究所 (Berkeley Seismological Laboratory) に滞在しました。同大学では地震

学に関する多岐にわたる研究が行われており、毎週のようにセミナーや著名な研究者による講演が開かれるなど、研究に専念できる環境の中で活動を行うことができました。滞在中は Douglas Dreger 教授の下で、微動記録に含まれる非定常なシグナルの検出および成因の解析に関する研究を行い、これらが地震ノイズの解析に及ぼす影響について調べ

ました。現在、得られた成果を論文にまとめているところです。これまでに取り組んだことがないテーマの研究を行うことは大変興味深く新鮮でした。新たに知見を広げることができたと同時に、研究所の人々や滞在研究者同士の交流を深めることもでき、大変充実した毎日を送ることができました。研究の合間には、効果的な講義の行い方、アカデミック英語に関する滞在外向けの研修も受講し、講師としてのスキル向上にも努めました。得られた多くの知見を研修業務に活用できるように務めたいと思います。滞在中にはリッジレスト地震 (Mw7.1) の発生や近隣地域での山火事による大学の閉鎖など不安な出来事もありましたが、多くの方々の支えによって過ごした10ヶ月は、公私ともに生涯の財産となるものでした。この場をお借りしてお世話になった皆様に感謝申し上げます。

